

1. 単元名 「広町探検隊」から「広町みんなに届け隊」へ ～地域と関わり、自分で学び、仲間とつながる～

2. 単元の目標

観点	内容
知識・技能	地域の身近な自然や人々について関心をもち、見たり聞いたり体験したりすることを通して、自然や地域の特色や面白さなどに気がつくことができる。
思考・判断・表現	自分の関心や疑問をもとに、調べたいことを見つけ、友達と協力して調べたり、まとめたりしながら、伝えたいことを表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	地域の自然や人々に親しみや愛着をもち、進んで学習に取り組んだり、自らの生活に活かそうとしたりする。

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が同時に成立する場を設けることにより、子ども一人ひとりの興味・関心に応じた学びの深まりと、仲間とつながることの喜びの両方を実感させることを目的としている。地域との協働や保全活動、情報発信などを通じて、「地域を思う心」や「行動する力」を育み、地域社会とつながる力をもった2年生を育成していく。単元の後半では、年間を通じて実施する予定である「アオリイカプロジェクト」（腰越漁港や日本釣振興会との連携）、スクールコラボファンドを活用した外部講師参画の下での表現活動、鎌倉アクターズワークショップと連携した演劇的手法を取り入れた協働学習など、地域資源を活用したPBL（課題解決型学習）を展開する。広町公園での活動を基盤とし、子どもたちはグループごとに「保全」「周知」「演劇」などのテーマを選び、地域課題の発見から発信までを主体的に行う。これらの年間を通じた学びを統合し、地域社会とのつながりを深めていく。子どもたちに、地域の自然を守る活動が、地球規模の環境保全につながり、私たちの暮らしを豊かにすることに気づき、持続可能な社会づくりの一步を踏み出す意識を育むきっかけとしたい。広町での学びを通してSDGsの視点を身につけ、地域から世界へと視野を広げ、自分たちの行動が社会課題の解決につながることを実感できるような機会にしたい。多様な価値観に触れながら、自分の行動が社会に与える影響を理解し、よりよい地球環境と社会を創造する主体性を育むことができると考えている。

(2) 児童観

本学級の児童は、全体的に受け身な傾向があり、自ら進んで行動したり、やりたいことを提案しに学習や活動に取り組んだりすることが苦手な児童が多い。自分たちで進んで友達と協力して行動したりする場面が少なく、指示を待つ様子がよく見られる。

(3) 指導観

【必然性のある単元デザイン】

本単元は、地域「広町」という具体的なフィールドを舞台に、身近な自然との出会いから学びをスタートさせ、探検・保全・発信という一貫した流れで構成されている。そのプロセスには地域との関わりや、SDGsの視点が自然に内包されており、単なる体験学習にとどまらず、社会的意義をもつ学習へと展開する。児童が「自分たちの学びが地域をよりよくする」という実感をもちやすく、学びの必然性が自然に生まれている点に意義がある。

【自己決定の場面の充実】

学習初期段階から、子どもたちは「やってみたいこと」「探検したい場所」「調べたいテーマ」などを自分で決定する機会を繰り返し得る。個別ノートやポスターづくり、テーマ別フィールドワークなどでは、関心のある対象を自ら選び、方法も工夫することで、「自分ごとの学び」として主体性を強化する。単元の学びを通して、子ども達の内発的動機づけを高めるうえで極めて有効であり、「やらされる学び」から「自ら動く学び」への転換を実現する。

【仲間と共に学べる】

本単元では、協働的な学びの場を随所に配置している。例えば、基地づくりでは、グループで場所や構造を話し合いながら創造的に活動する。また、フィールドワーク後にはグループで成果を共有し合い、互いの視点から学びを深める。発表会に向けた準備では、伝え方を工夫する中で仲間の意見を取り入れながら作業を進め、表現力と共感力の育成にもつなげる。このような関わりを、単なる共同作業にとどまらず、互いに学びを高め合う「学び合い」の文化につなげていく。

【学びの道しるべ（ゴール・プロセス・イメージ）の共有】

「探検隊の結成」から「地域への発信」まで、学習のプロセスを段階的に示し、児童自身がどこに向かって学んでいるのかを常に意識できるようにしたい。各段階での活動内容をできる限り子どもたちからの意見でさせ、ふりかえりやまとめの時間も設け、自分の成長を可視化する仕掛けをちりばめたい。目標と手段が明確であることで、児童が安心して学びに向かうことができ、ゴール達成に向けた見通しをもちながら活動に取り組むことができる。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- 多様性… 地域には素晴らしい都市型森林公園があり、それを守る人々がいるということ。
- 公平性… 地域には市民活動の結果守られた公園があり、これからも守っていこうとすること。
- 責任性… これまでいろいろな人が引き継いできた公園を自分たちもつなげていこうとすること。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- コミュニケーションを行う力…地域にはいろいろな人がいて、その方々の思いや考えを聞き、いろいろな情報を取り入れる。
- つながりを尊重する態度…広町公園の自然や地域の人とのつながりが豊かな学びになっているということを自覚し、尊重しようとする。
- 進んで参加する態度 …広町公園での様々な活動を通して、自分にできることはないかを考え、実際に活動する。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

- 世代間の公正…地域の方々がかこれまで築いてきたことを、自分たちがどのようにつなげていくかということ。
- 人権・文化を尊重する…地域にある広町公園について知り、広町公園という文化をどのようにして守っていくかということ。
- 幸福感に敏感になる、幸福感を重視する…当たり前と思っている現在の生活が、将来的に続くとは限らず、今の状況が幸せであること。

・達成が期待される SDGs

- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 4 海の豊かさを守ろう
- 1 5 陸の豊かさを守ろう。

4. 単元の評価規準

観点	見取りの視点	主な評価方法
知識・技能	地域や身近な自然の変化や面白さ、不思議さに気づいている。	ノート、観察記録、発表内容
思考・判断・表現	観察した自然の特徴をとらえている。 活動の中で使うものや作るものを工夫している。 自分なりの問いを持ち、それに基づいて調べたり表現したりしている。	模造紙、ポスター、話し合いの様子、活動中の様子
主体的に学習に取り組む態度	周りの人と楽しみながら学習や活動に取り組んでいる。 学んだこと自分の生活と結び付けて楽しくしようとしている。	行動観察、ふりかえり（発表・ノート）、グループ活動

5. 指導計画(全 62 時間程度)

時期	学習活動	時数
第1次	自然とのふれあい活動 【学習指導要領第2 2内容(3)】	2
第2次	基地づくり・夏探し計画/広町探検隊結成(地域や自然への関心を高める) 【学習指導要領第2 2内容(5)(6)】	2
	実際の広町探検(夏探し・基地づくり)	8
	感じたこと・分かったことのまとめ(ノート・絵・言葉)	3
第3次	広町についてもっと知りたいことを出す → 調べるテーマ決定 【学習指導要領第2 2内容(3)】	3
	フィールドワーク①(テーマ別体験・地域の人と対話)	4
	感じたこと・分かったことのまとめ(模造紙)	2
	フィールドワーク②(グループ共有・ふりかえり)	4
	感じたこと・分かったことのまとめ(模造紙)	2

時期	学習活動	時数
第4次	秋探し 【学習指導要領第2 2内容（5）】	3
第5次	広町保全活動体験（落ち葉拾い・コケ取りなど） 【学習指導要領第2 2内容（3）】	4
第6次	模造紙やポスターによるまとめ／発信準備 【学習指導要領第2 2内容（8）】	6
	校内発表（保護者・1年生など）	2
第7次	冬探し 【学習指導要領第2 2内容（5）】	3
第8次	地域へ伝える活動（ポスター・チラシ・手紙・劇） 【学習指導要領第2 2内容（8）】	12
第9次	振り返りとまとめ（広町みんなに届け隊として）	2

6. 単元の展開

第1次：広町緑地を知ろう ねらい：活動への興味を高め、学びのスタートを自分ごととして捉える。主な活動：アオリイカプロジェクトを通して広町緑地の保全活動に関する講師の話聞き、身近な自然に興味を感じてもらう。

第2次：基地づくりと夏探しの計画 ねらい：自然の魅力に気づき、夏探しや基地づくりの目的意識をもつ。主な活動：公園マップを見て夏探しと基地づくりを計画する。興味のあるテーマ（木の実・虫・葉など）を個別に選ぶ。グループで基地の場所やつくり方を話し合い、アイデアをまとめる。第2次：基地づくり・夏探し実践 ねらい：自然にふれて、仲間と協力して創造的に活動する。主な活動：拾ったものを観察し、記録する（図鑑や虫めがねを使用）。基地づくりを行う（自然素材、段ボール、麻ひもなどを使用）。ノートにイラストやメモで記録し、探検の成果を残す。第2次：感じたこと・分かったことのまとめ（ノート・絵・言葉） ねらい：探検の結果を整理し、共有できるようにまとめる。主な活動：探検や基地づくりの体験をノートや絵で振り返る。分かったことや感じたことを言葉にして、グループで共有する。まとめたことをポスターや発表の準備に活用する。

第3次：広町についてもっと知りたいことを出す → 調べるテーマ決定。 ねらい：興味を深めるために調べたいテーマを決める。主な活動：広町について、もっと知りたいことを発表し合う。その中から子どもたちが各自で調べるテーマと具体的な探究課題を決める（例：地域の動植物行事など）。第3次：フィールドワーク①（テーマ別体験・地域の人と対話） ねらい：地域の人々と対話し、体験を通して理解を深める。主な活動：それぞれのテーマに基づいてフィールドワークを実施（例：地域の人との対話、観察、質問など）。地元の住民や専門家にインタビューをし、直接学ぶ機会を持つ。体験したことをノートに記録し、後のまとめに活かす。第3次：フィールドワーク②（グループ共有・ふりかえり） ねらい：体験を共有し、学びを深める。主な活動：フィールドワークの結果をグループで共有し、お互いの学びを深める。それぞれの調査テーマの成果をまとめ、次の発表に向けた準備を行う。ふりかえりを行い、自分の学びを振り返る時間を設ける。

第4次：模造紙やポスターによるまとめ／発信準備 ねらい：各自のテーマについて調べたことを視覚的にまとめ、発信の準備をする。主な活動：調べたことを模造紙やポスターにまとめる（絵や文字で表現）。グループごとに発信内容を整理し、発表会に向けて準備を進める。発信方法や伝え方を工夫し、どのように地域の人々に伝えるかを考える。第4次：校内発表（保護者・1年生など） ねらい：学びを他者に伝える喜びを感じる。主な活動：まとめたポスターや成果を使って、校内で発表会を実施。発表の相手（保護者や1年生など）を招待し、自分たちの学びを共有する。みんなの前で発表し、地域への思いを伝えることを目的とする。

第5次：広町保全活動体験（落ち葉拾い・コケ取りなど） ねらい：地域の保全活動を通して地域とのつながりを実感する。主な活動：実際に広町公園で保全活動を行い、地域環境の大切さを学ぶ（例：落ち葉拾いやコケ取り）。地域を守るために自分たちができることを考え、実践する。

第6次：地域へ伝える活動（ポスター・チラシ・手紙・劇など） ねらい：学んだことを地域へ伝える方法を考える。主な活動：地域住民に向けて、ポスターやチラシ、手紙を作成する。自分たちの学びをどう地域の人に伝えるか、アイデアを出し合う。（例、劇など。）作成したポスターやチラシを地域内で配布し、発信活動を行う。

第7次：振り返りとまとめ（広町みんなに届け隊として） ねらい：学びを振り返り、今後の目標を考える。主な活動：これまでの活動を振り返り、学んだことを共有する。これからの地域との関わりについて考え、今後どう行動していくかを話し合う。最後に、地域への感謝や次のステップについても考え、発表する。